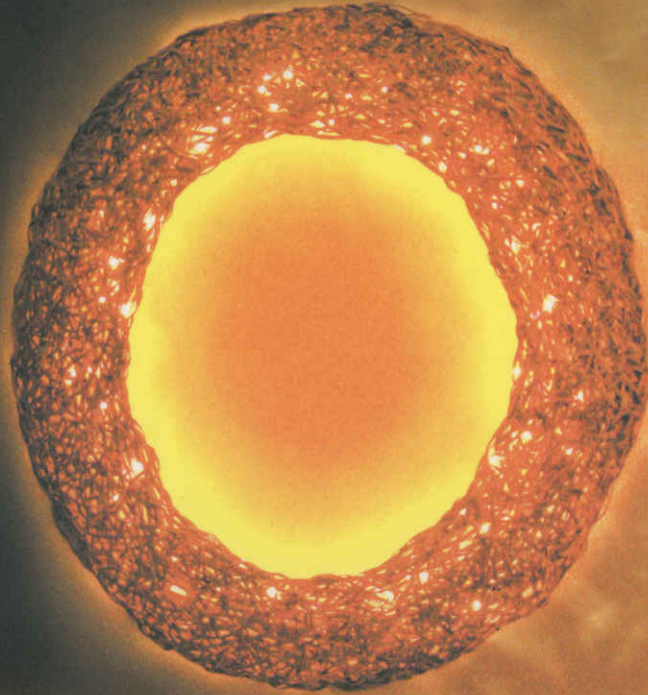


日本初！竹のアーアート美術館

保坂紀夫

# 竹の造形美術館

NORIO HOSAKA Bamboo Art Museum



竹の魅力を極める。



ハケ岳南麓 泉ライン沿いに



- 開館日=土・日・月曜日と祝日  
GW、と夏期は連続営業有り(要問合せ)
- 開館時間=10:00am~5:00pm  
冬期休業=12月~4月中旬(詳しくは要問合せ)
- 入館料=高校生以上 600円(20名以上は100円引き)  
小、中学生 300円

\*贈答手紙をお持ちの方は無料です。  
\*ミュージアムショップ、サロン、コーヒーコーナーは入場無料  
\*体験教室=詳しくはお問い合わせ下さい。



- 電車 小海線甲斐小泉駅より徒歩20分
- タクシー 中央線長坂駅より13分 小淵沢駅より12分
- 車 中央自動車道 長坂 ICより15分 小淵沢 ICより15分
- 駐車場 駐車スペース30台 バスも駐められます

保坂紀夫

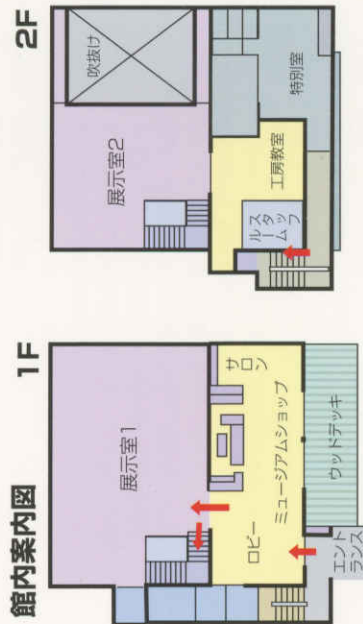
## 竹の造形美術館

〒409-1502 山梨県北杜市大泉町谷戸 6727-1  
TEL&FAX 0551-38-2211  
http://www.bambooart.jp/ E-mail hosaka6727@lapis.plala.or.jp

- office (冬期事務所)  
〒400-0035 山梨県甲府市飯田 5-17-41  
TEL 055-222-3204 FAX 055-222-3206  
携帯 090-7174-0115  
E-mail bamboo.hosaka@gmail.com



木の香漂う館内に保坂紀夫の竹の作品が常時100点以上展示されています。



●ミュージアムショップ、  
サロン、コーヒーコーナーは  
無料入場できます。



サロン  
(サロンキャラリー  
になります)



ミュージアム  
ショップ





東京銀座ソニービルスクエア「破竹の想い」1996~97

ごあいさつ

当館は、標高1,060mのハケ岳南麓に2006年にオープンしました。ハケ岳は私が中、高校生の頃からスケッチブックを持って何度も訪れた、いわば私の美術活動の原点といえる場所です。2003年にアトリエを移してこの地で創作活動を開始し、3年後に日本で初の竹のアーティストを常設展示する美術館としてオープン致しました。50年以上も前から好きで、たくさんさんの刺激を与えてくれたこの地を、これからの創作活動および作品展示や交流の基地としたわけです。

館内には常時100点以上の作品を展示しており、作品の入れ替えや展示替えも適時行っております。新旧の作品を同時に展示することで、さらなる反省と刺激を受け、竹に学びながら創作を続けています。

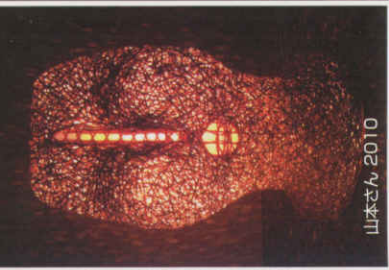
100%地元産の檜と杉で建てられた木の香あふれる空間の中で、ゆったりと作品をご鑑賞いただけましたら幸いに思います。

保坂紀夫 *Asahi*

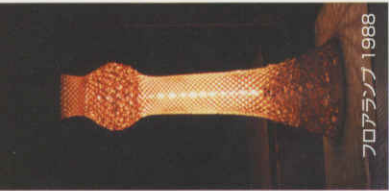
「なぜ竹で作品を作るようになったのか？」 ー最も多い質問ですー

美術学生の頃、フットと頭の中に竹の素材感が浮かび上がってきたことがあります。子どもの頃、家の周りに竹林がたくさんあり、竹で遊んだ時の感触が蘇ってきたのです。“竹の持つ物性は素晴らしい可能性を持っている”と感じるようになり、将来、竹を素材としたアートをやってみようと思うようになりました。それは、竹は自分に合いそうだという、直感に近いものでした。

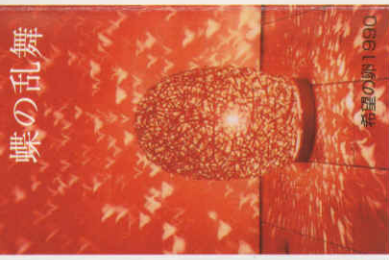
伝統的な日本の竹工芸はすばらしい技術集積があるので、まずは、この基礎技術をマスターして、現代的なアート表現およびデザイン創作をしてみようと考えてきました。しかし、当時東京で学べる所がなかったので、大学卒業後、工業デザイン一歩の傍ら日本各地に残る竹の技術を少しずつ習得していきましました。そのため、思い立ってから初個展までに20年もの年月がかかりました。その廻り道人生で道の草が個々の作品の中にあるのだと思います。今後も続く道のりです。



山本さん 2010



アロランブ 1988



蝶の乱舞

希望の旗 1990

奔放・自在 大胆・エネルギー



走る竹人 (5m) 2002



パーティー盛籠 1986



玉壽ボール籠 1985



美・精敏

矢筒籠 1992



ランタナ・ストリー 2001

アートからデザイン・インスタレーションまで  
これは一人の男の仕事です!



個展 (沼津御用邸内30室) 2003



工業デザイナーから転身

竹は修業すべき技術が多くて、思い立ってから作品発表まで20年を要した。

保坂紀夫プロフィール

- 1940年 生まれ
- 1966年 武蔵野美術大学、工芸、工業デザイン科卒業  
・在学中に竹の美術造形素材としての可能性を見出す
- 1966~80年 企業デザイナー(15年間)主に三菱グループで工業デザイン、商業デザイン、ディスプレイ等担当する。
- 1981~ この間に国内各地の伝統的竹技術を学び始める。  
独立、甲府市に拠点を移し「保坂デザイン研究室」設立。
- 1984年~ 竹を素材とした造形活動も本格的に取り組み始める。  
竹による多様な作品を発表する。
- 1984年~ 初個展以来、国内各地で40回以上開催  
(東京、山梨、静岡、愛知、京都、宮城、岩手、他6展も多数)
- 1990年~ 海外展・「日本の美展」フィンランド、招待出展以来、フランス、ドイツ、アメリカ、台湾、香港等で展示及びワークショップ
- 1994年 竹の灯りで働く・ベーターラング・ピアノコンサート・パーティ演出  
東京藝術大学で日本初の竹の美術講義を行う。「竹・造形素材としての魅力」以来、各美大、芸大でレクチャー、ワークショップを行っている。
- 1997年 東京銀座新年インスタレーション「破竹の想い」  
(ソニービルスクエア)
- 2003年 ハケ岳南麓(北杜市大泉町)にアトリエを移し、大型作品に取り組む  
・改定教科書「高校美術工芸 I・II」に作品掲載  
・御用邸内30室で史上初の個展(沼津御用邸、西付属邸内)  
皇室献上作品に選定
- 2005年 保坂紀夫「竹の造形美術館」完成(ハケ岳南麓・大泉町)
- 2006年 100点以上の作品を常設展示
- 2009~10年 台日竹工芸展 招待出品 作品は国立工芸研究所に収蔵
- 2010年 個展「保坂紀夫展」於 修善寺(修善寺温泉)
- 2010~11年 「竹の輝き」保坂紀夫展(ダイヤモンドハケ岳美術館特別企画展)
- 2012年 イギリス交流活動開始
- 2013年 国民文化祭各種活動  
(出版) 1999年「夢幻の竹」保坂紀夫の仕事  
~デザインからアートまで~(六耀社)

愛知芸術大学非常勤講師  
武蔵野美術大学特別講師

能・狂言舞台演出 2000



文化満喫！暮らしと味わいフェスティバル

国民文化祭 甲府市主催事業



# 保坂紀夫展

新市庁舎と

## 竹のアート



市役所が美術館に！



2013年

10月19日(土)~27日(日) AM8:30~PM9:30 最終日pm5:00まで

会場・甲府市役所一階(市民プラザ・市民活動室・エントランス) 入場無料

主催 | 文化庁・山梨県・山梨県教育委員会・第28回国民文化祭山梨県実行委員会  
甲府市・甲府市教育委員会・第28回国民文化祭甲府市実行委員会



文化満喫!暮らしと味わいフェスティバル

第28回 国民文化祭 甲府市主催事業



# 保坂紀夫展

新市庁舎と  
竹のアート



竹林のレディシッブ

2013年  
10月19日(土)~27日(日) AM8:30~PM9:30 最終日pm5:00まで

会場・甲府市役所1階(市民プラザ・市民活動室・エントランス)入場無料

■問合せ先

第28回 国民文化祭甲府市実行委員会事務局  
〒400-8585 山梨県甲府市丸の内1-18-1 TEL055-223-7332

●保坂紀夫プロフィール

- 1940年 山梨県生まれ
- 武蔵野美術大学、工芸工業デザイン科卒
- 工業デザイナー(15年)から竹のアーティストへ転身
- 個展、国内50回以上、海外での展示、活動も多数
- 竹をファインアートの新素材として発表や活動を続ける
- 1995年 東京芸術大学で日本初の竹のアート授業を行う
- 作品は、美術教科書に掲載、皇室献上作品にも選定される
- 2006年 保坂紀夫「竹の造形美術館」開設(八ヶ岳南麓)
- 出版「変幻の竹」1999年 六耀社
- 武蔵野美術大学特別講師、愛知芸術大学非常勤講師



差出人・〒400-0035 山梨県甲府市... 4 保坂紀夫